



京都教区時報



京都教区広報委員会
 (編集長 村上透磨)
 京都教区本部事務局
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

3頁 京都教区一粒会の日「『司祭職の喜び』をテーマに」

4頁 教会学校「小学生の信仰教育についてのアンケート」

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
 ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
 TEL・FAX 079-431-8601

2018年 司教年頭書簡 「エコロジカルな回心」

回勅『ラウダート・シ』の呼びかけ

自然を讃え歌う詩人

大変だ、大変だ。私たちの地球が悲鳴をあげている。

このままだったら、この「終の住処」「地球に住めなくなる」。

「何かしなければ、今の内に何か手を打っておかねば」。

これが、環境問題に関心を持った人々の心騒ぎです。そこで心ある人は、真剣に悲痛とも思える心と知識と知恵をしばって考え、「あれは、これは」と真剣に方策を練ります。その真剣さはまことに賞賛すべくありがたいことだと思えます。

私たちもそれに耳を傾け、落ち着いて応えねばなりません。しかし、そんな考え方、やり方では駄目だ、こちらの見方が正しいと批判し非難する人もいます。みな真剣なのです。でも、みんなが完全なわけではありません。互いに相手を否定し、裁き合うのではなく、「対話の精神」を持って総合的に考え、改善に向かわなければなりません。けれど、その



間に自然環境は、ものすごい勢いで変化して行きます。良い方向になれば良いのですが、憂慮すべき方向が勝っているようです。

そこで、教皇たちが立ち上がりました。特に、教皇フランシスコは、エコロジーの問題を先ず「福音そのものの問題である」として、総合的(インテグラル)なエコロジーの重要さを語られるのです。エコロジーが何を意味するのか、総合的などは何を意味するのか、教皇も教書(回勅



ラウダート・シ(第四章)で明らかにされますが、大塚司教も説明しています(2018年頭書簡)。それは、いずれ明かされるとして、ともかくこの問いかけに、真摯に答えることが、私たちの責務です。

観想への招き

そこで先ず、教皇は「観想しましょう」「祈りましょう」と勧めます。そして御自身、三つの祈りを教えられます。主のように(マタイ6・9〜13、ルカ11・2〜4)。

一つは「わたしたちの地球のために祈り」

二つ目は「被造物とともにささげるキリスト者の祈り」

そして2016年9月1日「被造物を大切にする世界祈願日」メッセージの文末に書かれた「貧しい人のための祈り」です。これにエコロジーの保護者、アッシジの聖フランシスコの「太陽の讃歌」を加えることにすれば良いと思います。これらを深く黙想し祈りたいと思います。

エコロジーの保護者

詩人アッシジの聖フランシスコ

アッシジの聖フランシスコは、自然を愛し、自然に生きた清貧の人、神の愛に自由に生きた人と言える。また、日本にも「良寛さん」「一遍上人」「妙好人」と呼ばれるような生き方をした聖人もいました。彼らは自然を愛し、自然を歌い、自然に生きた姿が人々に愛されたのです。

アッシジの聖フランシスコが愛される理由は、その清貧の精神と生き方にありますが、彼は、まず祈りの人、観想の人、そして「詩人」だったのです。彼のこの姿こそ、環境問題に取り組むキリスト者の態度の最も深い所にある「心」だと思います。これがないと、全てのものに対する優しさも美しさもなく……福音の喜びを証す人としては……。

彼は自然を「詩」としてとらえ、自然を「詩」として歌った。

自然が(鳥や花や虫たちが)神を讃えているのを聞いた、彼は叫ぶのです。「もういい、もういい、黙っておくれ、あな

た方が神を讃えているのが良くわかった」。

「詩」とは祈りの言葉です。祈りは心のあふれです。

心は神の愛と息吹と命がゆらぐ所。その心を詩うのです。

子供は優れた詩人だと言われます。

子供のような愛と感受性が、その口心の詩を歌います。私は幼きイエスのテレジアに詩人の心を感じます。

小さい人に身をふるわせたマザーテレサの心に詩を感じます。

彼らは、みな自然を神と人の心を讃え歌う詩人なのです。

(村上透磨)



京都教区一粒会の日

「司祭職の喜び」をテーマに

うお話をしました。このミサは、会場の設営、司会、朗読、共同祈願、聖歌、オルガン演奏など、青年たちの積極的な参加によって行われました。イエスのカリタス修道女会のシスター数名も応援にきてくれました。

隆神父より一粒会の現状報告が行われ、幸いにも司祭への道を考えている青年が、増加傾向にある京都教区において、一粒会の活動が今後ますます重要であることが説明されました。

11月18日に西陣教会で「京都教区一粒会の日」が開催されました。「一粒会(いちりゅうかい)」とは、「神学生・司祭養成協力会」につけられた名称です。その規約には年に一回、司教または代理者によって、特に一粒会会員のためにミサを捧げることが定められています。(なお、一粒会会員とは、祈りと献金によって一粒会の活動にご協力いただいているすべての方のことであり、名簿登録などはありません。)この日も、大塚喜直司教によってミサが捧げられました。数名の

ミサに先立ち、「司祭職の喜び」というテーマでシンポジウムが行なわれました。鶴山進栄神父とチェ・ソンファン神父が、司祭として体験している喜びについて、また、苦しみについても、率直に語り、司祭を支えているのは、イエス・キリストの十字架の苦しみに結ばれている信仰だということが伝わってきました。鶴山神父は、日本で暮らしている、様々な外国籍の信者さんとの交わりを通して、感じている喜びについて、そして、

2018年の一粒会の日は、4月21日の福岡一穂神父、森田直樹神父の銀祝感謝ミサに合わせて、河原町教会で実施される予定です。皆様のお越しをお待ちしております。祈りの内に司祭への道を歩みだしている若者がいます。彼らを支えるために、一粒会の活動へのご協力をよろしく願います。なお、司祭になることを考えている青年は、司祭にご相談ください。

京都教区広報委員会



司祭が共同司式をし、説教担当の菅原友明神父は、司祭職は神様のご計画が人の弱さを通して働く場であるのではないかとい

チェ神父は、司祭として、キリストの王職、預言職、祭司職に与る喜びについて語りました。王職とは「仕える」、預言職とは「伝える」、祭司職とは「捧げる」ことです。今年で司祭叙階10年を迎えたお二人から、司祭として生活している中で抱くさまざまな気持ちが出露されて、当日、集った多くの青年たちは、興味深く聞き入っていました。その後、大塚乾





小学生の信仰教育についてのアンケート

信仰教育委員会では、昨年6月、京都教区の47小教区の教会学校担当者の対象に、「小学生の信仰教育についてのアンケート」を実施しました。

アンケートの目的は、信仰教育委員会として、小教区の教会学校の活動をサ



土曜学校錬成会での要理

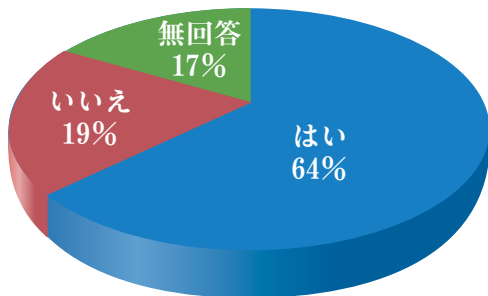
ポートするための参考にさせていただくことでした。18年前の2000年に、やはり、同じようなアンケートを実施し、その回答をふまえ、2003年から教会学校リーダー養成のための研修会が始まりました。

今回は、47小教区中39小教区から回答をいただき、教会学校担当者の方たちの子どもたちの信仰教育に対する熱意を感じました。18年前とほぼ変わりがない、つまり、解決できていない課題、そして新たに出てきた課題も見受けられ、また、すべての教会学校に共通する課題もあれば、それぞれの小教区固有の課題も見受けられました。いずれにしても、たくさんの課題を抱えながら子どもたちの信仰教育に携わっておられる、リーダー(担当者)の方々の、悩み、戸惑いそしてやりがい、喜びなどを、垣間見ることができました。アンケート16項目の設問と回答を順次掲載させていただきます。教区のみなさんと分かち合いながら、子どもたちの信仰教育について一緒に考えていけたらと思います。

京都教区信仰教育委員会

設問1：あなたの教会では、教会学校が行われていますか。

回答：はい 30 いいえ 9 無回答 8



教会学校が行われていますか



2月のお知らせ

教 区

福音宣教企画室 / Tel.075(229)6800

絵画を通しての祈りⅡ

「カラヴァッジョ

通称《洗礼者聖ヨハネ》の謎」

講 師：木村 太郎氏

(大阪芸術大学非常勤講師)

大塚 喜直司教

日 時：夜)26日⑧ 19:00

昼)27日⑨ 10:30

*両日とも同一内容

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

受講費：500円(申込不要)

修 道 会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

聖書深読黙想会(中川 博道師)

日 時：3日① 10:00~16:00

参加費：2,500円

水曜黙想(中川 博道師)

日 時：14日② 10:00~16:00

テーマ：四旬節の課題

参加費：3,000円

キリスト教霊的同伴(九里 彰師)

日 時：23日③ 20:00~24日④ 15:00

参加費：7,000円

聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

みことばを聴こう！

日 時：11日⑤ 9:30~16:00

テーマ：「沈黙」とイエスの言葉の力

講 師：米田 彰男師(ドミニコ会)

対 象：青年男女(18~40才)

会 費：500円(昼食代)

締 切：7日⑥(事前申込要)

申 込：Tel.075(231)2017 Fax.(222)2573

E-mail kyoto@dominic.or.jp

ノートルダム教育修道女会

女子青年黙想会<希望の道>

日 時：17日⑦ 15:00~18日⑧ 15:30

テーマ：心に納めて、思い巡らす

場 所：ノートルダム唐崎修道院

指 導：山内 十束師(御受難会)

対 象：独身女子青年信徒 / 費用：2,500円

締切り：11日⑨(事前申込要)Sr. 桂川

申込み：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：11日⑩ 14:00/24日⑪ 18:00 ミサ奉仕後

カトリック会館 6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：8日⑫ 10:00/22日⑬ 10:00

カトリック会館 6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話ミサと総会

日 時：6日⑭ 11:00

会 場：「都の聖母」小聖堂・ヴィリオンホール

参加費：700円

申込要：Tel・Fax.075(723)1135 傳(つとう) 裕子

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA

毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「喜びと平和のうちに」

出演は松村 信也師(イエズス会)

ラジオ(KBS京都) ⑮~⑯ 朝 5:55

⑰ 朝 5:15

2月のテーマ「ゆるし・いやし」

2月14日 灰の水曜日(大斎・小斎)

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛にFax.075(211)4345 か honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※ 4月号の原稿締切り日は2月21日⑰です。

大塚司教の

2月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 2日(金)-7日(水) 右近マニラ巡礼
- 8日(水) 10:00 中央協 常任司教委員会
15:30 日本カトリック神学院
常任司教委員会
- 9日(金) 中央協 列聖推進委員会
- 11日(日) 10:00 滋賀 水口グループ
ポルトガル語ミサ
- 12日(月) 14:00 ウェイン・バーント被選司教
叙階式(那覇教区 安里教会)
- 13日(火) 16:00 青少年委員会
- 15日(木) 11:00 聖家族幼稚園 聖堂訪問賛美式
(河原町教会)

- 16日(金) 9:00 四日市メリノール学院
中学校 修養会
- 18日(日) 13:30 京都教区女子奉献生活者の会
講話・総会(河原町カトリック会館)
- 19日(月)-23日(金) 2018年度 定例司教総会
(中央協)
- 25日(日) 10:00 大阪教区 吹田教会
四旬節黙想会
- 26日(月) 14:00 司教顧問会・地区長 合同会議
19:00 「絵画を通しての祈りⅡ」
(カラバッジョ講演会)
- 27日(火) 10:00 「絵画を通しての祈りⅡ」
(カラバッジョ講演会)
- 28日(水) 10:00 ノートルダム女学院高等学校
卒業式

「YES 2017報告」

西舞鶴教会 小林まゆか

2017年11月11日～12日、西院教会において、YES 2017を行ないました。YES 2017とは京都教区の青年を対象とした合宿で、今年は三重県から初めて参加してくれた青年もいて、神様の下での出会いの喜びを感じることができた合宿でもありました。

今回の合宿のテーマは「YES! 右近! with me!」。2017年に列福された高山右近の生き方・考え方についての講話を大塚司教様から頂いた後に、「自分は普段の生活の中でどのようにキリスト者として生きていくことができるか」、「キリスト者としてどう生きるべきか」を自分自身と向き合って考えるというプログラムでした。

約20人の青年が参加し、「いつも神様

は私たちの傍にいてくださるけど、普段の生活の中でそれを感じる瞬間ってある？」という分かち合いから始め、「神様はいつでも私たちとともにいてくださるから、頼ることも大切だ」ということを改めて考えました。

今回も無事に終えることができました。いつも青年のためにお祈りしてくださっている皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



YES 2017

【青年センターHP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな